

なかま

明と暗 揺るがぬ秋の 思索かな
パノラマの 紅葉天に 至る夢

行事予定表

- 10月19日 参観日(懇談)小1小2(1校時参観2校時懇談)、中P小中高(3校時参観4校時懇談)
10月26日 古本セール
11月2日 新1年募集説明会 燦々プロジェクト
教員研修(NJ日本人学校による示範授業)
11月9日16日 表現学習発表会(中高)

名札をつけましょう!

名札は学校関係者と部外者とを区別し、危険に備えるために必要です。これから行事が続き人の出入りが多くなることが予想されるために、名札をつけるようお願いします。

持つべきものは友

子どもたちは誰から最も影響を受けていると思いますか。もちろんその年齢によりますが、学年が上がるほど、友だちからの影響を強く受けるようになります。なぜなら、自分に最も身近で共有するものが多いからだと思います。それに思春期には自分を形成するために欠かせないものなのです。

ここでは通う学校が異なっていたり、家が遠かったりと、友だちと関わる時間に自ずと制限があります。しかし、友だちと過ごす時間がいかに大事かを考えれば、保護者として工夫する余地はありそうです。わが子の人間関係をよく観察し、必要に応じて友だちとの時間を確保するように配慮することは大事でしょう。よき友は、ライバルにもなり、心の支えにもなり、わが子が生きていくために、かけがえのない価値を有しているのです。持つべきは友。そして、海外にあっては、わが子がよき友を得るために親の支援は欠かせないと思います。



住友生命こども絵画コンクール

のNY紀伊国屋書店での展示会が、主催者の事情により行われません。代わりに、10月19日に3階廊下に全作品を展示しますので、ご覧ください。

プリンストン日本語学校新聞



平成26年度 No.22号

平成26年10月19日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

「宮沢賢治」ってどんな人? (17) 芝崎雅行
ただ一人の親友 (2)

保阪寡内(かない)作『人間のもだえ』は、どれくらい題名の芝居だけど、寡内はこの原稿用紙9枚の台本を盛岡高等農林学校の入寮1ヶ月目で、室長賢治を含む、同室者6名を念頭に書き上げ、寮祭だか懇親会だかで上演してしまう。ノリのよい20歳前後の学生相手としても、そこまで持って行くのは相当の機動力だよね。そもそも、寡内は、山梨からちよくちよく東京に出て歌舞伎のツウになっていたというし、盛岡に来てからも「三文芝居や、天勝一座の「サロメ」などを観ていた」(菅原千恵子『宮沢賢治の青春』)というから、相当の演劇青年だった。賢治としては、そんな人がトルストイ動機で高等農林に入ってきて、寮同室で目の前を24時間うろちよるされたら、誰だって感化されちゃうでしょ。

一方の寡内としては、石川啄木に憧れて盛岡に来たのであって、東北の田舎農学校に自分に敵う学生などいないと思いきや、やたらとジミなのに、妙に自分に呼応して文学・哲学・宗教で互角の議論を余裕でこなす男がいたことは、やっぱり驚きだったんじゃないの。3ヶ月後の夏休み前には、二人の親交関係は、もう、かっちり確立されていた。

賢治も啄木に触発され短歌を一人作り続けていたけど、それを人に見せる気にはならなかったのね。基本シャイだから。それが、積極アピール人間の寡内にカルチャーショックを受けて、寡内を追って、学校の『校友会会報』に短歌を発表するようになった。その後、校内雑誌の限られた文芸スペースに飽き足らず、二人を含む同人誌『アザリア』第1号を1917年7月発刊。自由な作品発表の場が確保されたわけね。僕らが知る宮沢賢治の創作出発点がここにあったわけね。

法華経についても、たぶん、同じようなことが言えると思うんだよね。寡内はキリスト教にハマっていたのだけど、賢治は、寡内相手に宗教論の対話をして行くことで、本来、積極的な関与を求めている法華経に対して、どう向き合うべきか、眼からうろこが落ちて行ったんじゃないかと。二人の議論は共通の倫理を基礎にしていた。賢治は、この世は苦しみだという仏教の基本思想を持ち、互いに殺しあう世界を、少しでも良いものにするには、自分はどんなに良いという自己犠牲の思想を堅持していた。寡内は、その議論に同意した。「農村に行こう。トルストイのように自分を犠牲にしよう」観念的ではない賢治に比べ、寡内は一步先を歩いていて、「農村」「農民」という具体的な実践対象が捉えられていた。後年、賢治は寡内のビジョンを寡内なしで追いかけて行く事になるとも云える。。うん、賢治への影響は相当なもんだったね。寡内に出遭わなかったら、賢治は「宮沢賢治」にはならなかったかも。